

臨検小話< =その7= >

新屋 博 明 (エムティー法務研究会)

投稿

中絶胎児

平成 16 年 10 月 28 日の参議院環境委員会で「中絶胎児の取扱いに関する件」が会議に付されておりますので、ご紹介したいと思います。

「妊娠第四月以後における死産の出産」は、規程^{注1)}により市町村長(都の区の存する区域および地方自治法第 252 条の 19 第 1 項の指定都市にあつては、区長)への届出が義務付けられています。また、墓地埋葬法^{注2)}第 2 条第 1 項によれば、「妊娠四箇月以上の死胎」は同法上の死体に含まれるので、市町村長(特別区の区長を含む)の許可を受けた後、火葬や埋葬の手続きを執る必要があります。

では、上記の規程に基づく市町村長(特別区や政令指定都市の区長を含む)への届出義務がなく、墓地埋葬法上の死体に含まれない妊娠 4 か月未満の死胎は、「廃棄物」になってしまうのでしょうか。

参議院環境委員会(平成 16 年 10 月 28 日)の会議録をみると、政府参考人の環境大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長は、「廃棄物処理法^{注3)}におきましては、通常、人体で廃棄物と想定しておりますのは、手術などの結果出てまいります手とか足とかあるいは臓器とか、そういったものでございます。」と述べた後、「中絶胎児は想定しておらないところでございます。そういう意味で、捨てられてしまえば残念ながら廃棄物でございますので～云々」と述べているので、家族が死胎を引き取らず、その処理を病院(あるいは診療所)に委ねた場合は、「残念ながら廃棄物として処理されても仕方がない」という考えのようです。さらに厚生労働大臣官房審議官(政府参考人)は、「今回行った調査結果^{注4)}によりますれば、妊娠四か月未満の中絶胎児につきまして廃棄物処理業者が収集をし、感染性一般廃棄物として焼却している場合があることが明らかになったわけでございます。」と述べているので、墓地埋葬法上の死体に含まれない妊娠 4 か月未満の死胎のなかには、廃棄物として処理されている死胎が少なくないと思われます。なお、ここで注意しなければいけないのは、「妊娠 4 か月未満の死胎＝廃棄物」ではなく、「捨てられてしまえば残念ながら廃棄物でございます」という点だと思えます。

注 1) 死産の届出に関する規程(昭和 21 年 9 月 30 日厚生省令第 42 号)

注 2) 墓地、埋葬等に関する法律(昭和 23 年 5 月 31 日法律第 48 号)

注 3) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律(昭和 45 年 12 月 25 日法律第 137 号)

注 4) 妊娠 4 か月未満の中絶胎児の取扱いに関するアンケート調査結果及び今後の対応について(厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課/環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課適正処理・不法投棄対策室)

9 月の花

コスモス



名前の由来は、ギリシャ語で美しい、あるいは飾るの意味で、花の美しさからつけられたそうです。日本では、「秋桜」と書きますが、花の形が桜に似ているからです。コスモスは、種まき後 50～70 日で開花する系統と、比較的短い日数で咲く系統があります。普通、種まきは 4～7 月に行いますが、種まきの時期と品種を組み合わせることで、長期間開花が楽しめます。日当たりと排水を良くしてあげると、やせた土地でもよく育ちます。

生き物を育てることは、本当に難しいものです。

コスモスの花言葉は「乙女の真心」です。

その他、9 月の花には「陰徳」を花言葉に持つ、キクイモなんてものもあります。



編集室

- ◇ スポーツの祭典といわれる“五輪”も終わりました。今回は中国の人の多さを見せつけられたお祭りでした。中国 5 千年の歴史を絵巻物としてのパフォーマンスでしたが、あの“鳥の巣”の意味は何だったのでしょか。
- ◇ 今回は「和」を強調した五輪と言われますが、漢字を生み出した中国歴史をひもとくと「喙」がふさわしいでしょう。「喙」は「和」の原型です。
- ◇ 日本は金が幾つ、銀が幾つ、世界で何番目……という報道を見て思うことは、いかに日本の国際標準化が進んでいないことの現われではないでしょうか。
- ◇ 五輪は個人の戦いです。五輪は国の勝負ではないはず……ましてや、スポーツは「心技体」の戦いです。日本のお家芸の柔道では、「柔道は組み合わせもので、ポイント制は疑問である」とか、「野球の国際的ストライクゾーンに負けた」とか……自分に合わない、国に合わないものにクレームをつけ、責任の落としどころを模索することこそ国際標準化に届いていないことです。
- ◇ 男子マラソンは、ケニヤ生まれで日本育ちの S.WANSIRU が素晴らしいタイムで勝ちました。インタビューで「日本で教わったことで一番大切なことは“我慢”でした。日本の皆さんに感謝します」と言って頭を下げた姿が印象的でした。日本の皆さんの言葉にも「皆さんに感謝します」が多かったようですが、目はそう語っているようには見えませんでした。テレビ用語なのか? 無難な言葉を選択したのか? くらいにしか見えないのは何故でしょう?
- ◇ 中国は IT や PC を活用している人は 2 億人、携帯電話は 6 億人といわれています。その中国が「開かれた五輪」を打ち出しましたが、「開かれた」は“国民に対する情報開示”が成されてはじめて言えることです。今後が注目されます。バブルのはじけ…その波は北京へ届きそうだとの報道もあり、日本への影響も大きいものがあります。
- ◇ 今回は、自国から他国へ出て活躍している姿が多かったようです。陸上短距離の歴代チャンピオンはジャマイカ出身が殆どだそうです。しかし、今回はそのジャマイカとしての<自国>がメダル独占の雰囲気でした。それは、自国において世界をリードできる“スポーツ”という国の特徴を活かし、そのスポーツを通じた社会づくりを国策の成果といわれます。
- ◇ “心技体”のバランスを持ち、周囲を受け入れ<ナショナリズムからグローバリゼーションへの転換>た標準化、そして“我慢”をしてこそ何事も成就するのは、スポーツに限らないことを再認識させてくれた北京の五輪でした。



TAKADA